

## — 力学 A:演習問題 4 — 2012 年度 1 学期

未定義の記号は講義で用いた慣用に従って適宜解釈、定義せよ。

## I. 微分のチェーン則を復習しよう。

- I.1  $x, y$  の関数  $X(x, y), Y(x, y)$  に関して  $X, Y$  の関数  $f(X, Y)$  は  $f(X(x, y), Y(x, y))$  とみなすことで  $x, y$  の関数とも見なせる。これを  $\tilde{f}(x, y) = f(X(x, y), Y(x, y))$  と書こう。微小量の間関係式

$$\delta f = \frac{\partial f}{\partial X} \delta X + \frac{\partial f}{\partial Y} \delta Y, \quad \delta X = \frac{\partial X}{\partial x} \delta x + \frac{\partial X}{\partial y} \delta y, \quad \delta Y = \frac{\partial Y}{\partial x} \delta x + \frac{\partial Y}{\partial y} \delta y$$

を順に代入し以下を導け。

$$\frac{\partial \tilde{f}}{\partial x} = \frac{\partial X}{\partial x} \frac{\partial \tilde{f}}{\partial X} + \frac{\partial Y}{\partial x} \frac{\partial \tilde{f}}{\partial Y}, \quad \frac{\partial \tilde{f}}{\partial y} = \frac{\partial X}{\partial y} \frac{\partial \tilde{f}}{\partial X} + \frac{\partial Y}{\partial y} \frac{\partial \tilde{f}}{\partial Y},$$

これを  $\frac{\partial}{\partial x} = \frac{\partial X}{\partial x} \frac{\partial}{\partial X} + \frac{\partial Y}{\partial x} \frac{\partial}{\partial Y}$ ,  $\frac{\partial}{\partial y} = \frac{\partial X}{\partial y} \frac{\partial}{\partial X} + \frac{\partial Y}{\partial y} \frac{\partial}{\partial Y}$ , と書く。

- I.2  $X_j$  ( $j = 1, \dots, m$ ) の関数  $f(X_1, \dots, X_m)$  に関して  $X_j = X_j(x_1, \dots, x_n)$  と  $X_j$  が  $x_i$  ( $i = 1, \dots, n$ ) の関数であるとき、以下を導け

$$\frac{\partial}{\partial x_i} = \frac{\partial X_j}{\partial x_i} \frac{\partial}{\partial X_j}$$

- II. 右手系の  $x, y, z$  軸方向の単位ベクトルを  $\vec{e}_1, \vec{e}_2, \vec{e}_3$  として以下の問いに答よ。

- II.1  $z$  軸周りに角度  $\theta$  だけ座標系を回転したとき、それぞれ  $\vec{e}_1, \vec{e}_2, \vec{e}_3$  を回転して  $\vec{e}'_1, \vec{e}'_2, \vec{e}'_3$  となったとする。

- II.1-1 ベクトル  $\vec{e}'_1, \vec{e}'_2, \vec{e}'_3$  を  $\vec{e}_1, \vec{e}_2, \vec{e}_3$  で表せ。例えば、 $\vec{e}'_1 = \vec{e}_1 \cos \theta + \vec{e}_2 \sin \theta$  である。

- II.1-2  $\vec{e}'_1, \vec{e}'_2, \vec{e}'_3$  を  $(\vec{e}_1, \vec{e}_2, \vec{e}_3)$  を基底としたときの、ベクトルの表示  $e'_1, e'_2, e'_3$  を求めよ。

- II.1-3 任意のベクトル  $\vec{v}$  に対して基の座標系での表示を  $v$  新しい座標系での表示を  $v'$  としたとき、 $v = T v'$  となる  $3 \times 3$  行列  $T$  を書き下せ。またこの  $T$  が直交行列であることを確認せよ。

II.2 位置ベクトル  $r$  の変換則  $r = Tr'$  から、 $T$  が直交行列であることを用いて  $r' = \tilde{T}r$  を導け。

II.3  $r_i = x_i$  としたとき、[I.4] と微分のチェーン則

$$\frac{\partial}{\partial x_i} = \frac{\partial x'_j}{\partial x_i} \frac{\partial}{\partial x'_j}$$

からナブラがベクトルとして変換することを示せ。

III. 外積について議論しよう。

II.1 以下の関係式を示せ。

$$\mathbf{A} \cdot (\mathbf{B} \times \mathbf{C}) = \mathbf{B} \cdot (\mathbf{C} \times \mathbf{A}) = \mathbf{C} \cdot (\mathbf{A} \times \mathbf{B}) = \det \begin{pmatrix} A_1 & B_1 & C_1 \\ A_2 & B_2 & C_2 \\ A_3 & B_3 & C_3 \end{pmatrix}$$

II.2 以下の関係式を成分を使って直接計算により示せ。

$$(\mathbf{A} \times \mathbf{B}) \cdot (\mathbf{C} \times \mathbf{D}) = (\mathbf{A} \cdot \mathbf{C})(\mathbf{B} \cdot \mathbf{D}) - (\mathbf{A} \cdot \mathbf{D})(\mathbf{B} \cdot \mathbf{C})$$

II.3 [II.2] の結果を使い

$$\epsilon_{iab}\epsilon_{icd} = \delta_{ac}\delta_{bd} - \delta_{ad}\delta_{bc}$$

を示せ。

II.4 [II.2] の結果を使い  $|\mathbf{A} \times \mathbf{B}| = |\mathbf{A}||\mathbf{B}|\sin\theta$  を示せ。ただし、 $\theta$  は  $\mathbf{A}$  と  $\mathbf{B}$  とがなす角である。

VI. 角運動量について考えよう。

IV.1 原点中心とする半径  $R$ 、角速度  $\omega$  の等速円運動をする質量  $m$  の質点の角運動量ベクトル  $\vec{L}$  を求め、その大きさと向きを示せ。

IV.2 一般の質点の運動を考える。座標の原点を貫く方向に外力が働いている場合、角運動量は保存することを示せ。

V. (発展) ベクトル  $\mathbf{A}$ ,  $\mathbf{B}$  がベクトルとして変換するとき  $\mathbf{A} \times \mathbf{B}$  もベクトルとして変換することを示せ。